WA 9
8
2止

父の恩　2冊　WA9-8　02-001
国立国会図書館

WA9
8

享保五庚子年
速響得生
七月廿七日
淺草　天嶽院

俗名
市川九藏

968330

父の恩　2冊　WA9-8　02-002
国立国会図書館

享保六辛丑年
本住院圓理日了　俗名　大谷廣右衛門
二月十九日
芝金杉　正傳寺

見しせぬ涙迚の役あり
蒸篭投け人我祖とそ　水國

おなを庫なあてゑ谷稲荷

父の恩　2冊　WA9-8　02-003
国立国会図書館

享保六辛丑年
樟壽院寶榮　俗名　大熊宇田右衛門
六月廿二日
牛嶋　妙玄寺

岩天や春の實盛姉婿ども

倍子

父の恩　2冊　WA9-8　02-004
国立国会図書館

享保六辛丑年
常信院了體　俗名　金澤平六
八月廿三日
三田　藥王寺

神夢秋初茄子如是貴

立山

父の恩　2冊　WA9-8　02-005
国立国会図書館

享保六辛丑年
艷月院浄慶　俗名　水木竹十郎
九月十七日
下谷　常在寺

菊　盛き久松竹十郎三ツ墓

浪川

父の恩　2冊　WA9-8　02-006
国立国会図書館

享保八癸卯年
清山
正月廿五日

下谷
常在寺

一枝哉箭ゟ射すくめの矢答弓

楓睨

俗名
久松安右衛門

父の恩　2冊　WA9-8　02-007
国立国会図書館

享保八癸卯年
二月廿五日　深川雲光院中　常龍院

俗名　古宮崎十四郎

今ハ昔之物語ニて候
ゆつりをうけ
まるそのかみ
満てハ名を十四郎とそよへる

三升

梅干やあまつ彩雲の伽羅乃橫

享保八癸卯年
覺譽理頓
三月十七日

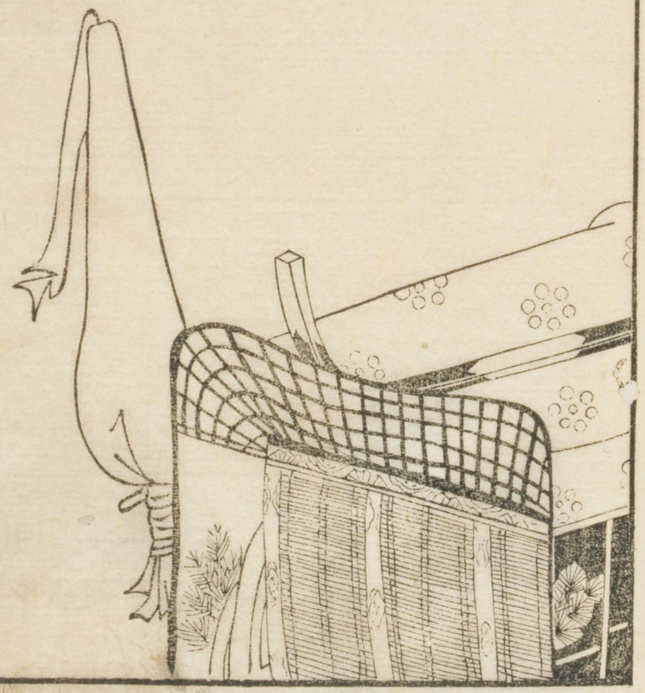
淺草光感寺中
栄林院

俗名
中川半三郎

梁乃ちもとり君の鳴乃裏

桃朝

父の恩　2冊　WA9-8　02-009
国立国会図書館



享保九甲辰年
冷山院壽仙
五月十五日
下谷 常在寺

俗名
古山中平九郎

和推

帷子よ那よ六位乃色の主

父の恩　2冊　WA9-8　02-010
国立国会図書館

享保九甲辰年
心警深空
九月十五日
山宿 九品寺

俗名
柚岡政之助

秋七尤歌詠ぬ小町旬りもの

山夕

父の恩　2冊　WA9-8　02-011
国立国会図書館

享保九甲辰年
智照院蓮心日境　俗名　中村竹三郎
十月廿四日
牛嶋　妙玄寺

琴哉是ぞまことを知て

弾

竹をもくだく雪の調べや霜壺碧

壺月

父の恩　2冊　WA9-8　02-012
国立国会図書館

享保十七子年
法山了水
正月九日

浅草称往院中
良狭菴

俗名
深川小晒

安長

父の恩　2冊　WA9-8　02-013
国立国会図書館

享保十乙己年
相譽一應理圓　俗名　三升屋助十郎
三月廿六日
深川本誓寺中　清心院

口先て狂ひも淺茅生の雪

起波

父の恩　2冊　WA9-8　02-014
国立国会図書館

享保十乙己年
聞法院宗信日受　俗名　西國兵助
六月十日
谷中三崎　長久寺

父の恩　2冊　WA9-8　02-015
国立国会図書館

享保十乙巳年
心光院顯理日耀　俗名　中村傳八
十二月五日
谷中　盛泰寺

戯(サレ)て世を我一休も誉の為ぞ立

貞山

父の恩　2冊　WA9-8　02-016
国立国会図書館

享保十一丙午年
證譽哲玲
十一月十二日

浅草 清光寺

俗名 市川子團次

若武者我情む

女 翠扇

葱

享保十二丁未年
覺譽成安
三月廿五日
增上寺中
花岳院

俗名
筒井吉十郎

沾山

為咲や又南方法華姫舞臺

父の恩　2冊　WA9-8　02-018
国立国会図書館

享保十三戊申年
釋玄覺
五月十一日

浅草
門跡寺中　敬覺寺

俗名
水木冨之助

墨合十二股の半矢
芳好まるゝ影

三笑

人形も踐る湊や五摩面

父の恩　2冊　WA9-8　02-019
国立国会図書館

享保十三戊申年

喜見日顔

五月廿日

谷中瑞林寺中

圓融房

俗名 嵐若野

風葉

声一の夢こそ法界(ヒイキ)贔負娘郭公

父の恩　2冊　WA9-8　02-020

国立国会図書館

享保十三戊申年
本立院道源
六月廿日

谷中瑞林寺中
是立房

俗名
片山小左衛門

薪水

結ぶべや庵の主も高き

父の恩　2冊　WA9-8　02-021
国立国会図書館

享保十四己酉年
曜譽義顯
正月廿五日
深川本誓寺中興
齡閑院
俗名
市川門之助

うらひなく
往生すること
あさも亦
もいくさき
蓮之

父の恩　2冊　WA9-8　02-022
国立国会図書館

享保十四己酉年
了外宗智
五月五日

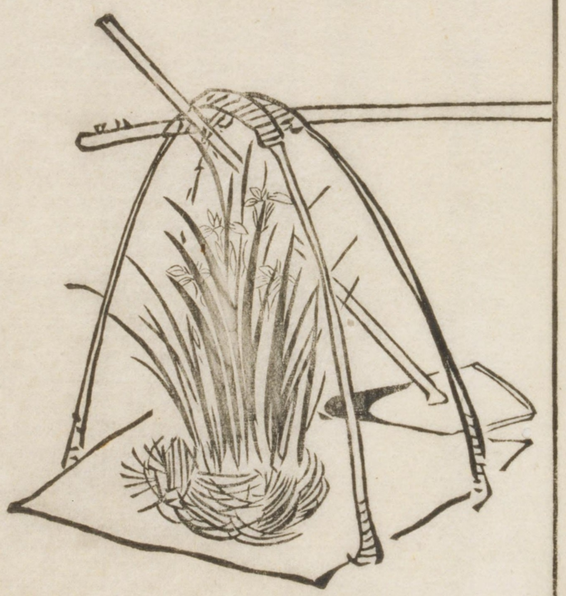
今户慶養寺

俗名
古村山十平次

兄十平次義髮して
宗智と改む

圓推

十德の画を明るき花ぬめ



父の恩　2冊　WA9-8　02-023
国立国会図書館

享保十四己酉年
秋月光運
七月十二日
増上寺中 威徳院

俗名
出来嶋大助

大坂ハ長堀のこと
ゑの木大地いたその町
芳林寺墓と称ス

朝顔の姫もさそくに百六ツ

五舟

父の恩　2冊　WA9-8　02-024
国立国会図書館

享保十四己酉年
至岸院松縁
八月十七日

浅草新寺町　本立寺

谷名　山本松三郎

惟光の股ぐも十七夜
もまもりや蔭別時

白翁

父の恩　2冊　WA9-8　02-025
国立国会図書館

市川竹之助
柚崎縫之助
尾上柚之助
藤田平蔵
荒川藤左衛門
大西森右衛門
藤田十郎兵衛

右十三人女戒名年号詳ならず
仍て俗名を題し古人雪中菴七
旬をそなへくれ七人を中略ふ

桑原長右衛門
松本四郎五郎
篠塚新平次
西村半九郎
松本善九郎
市川源七

嵐雪

亀甲や
皆おめでたき
若子
あへ

右六十六葉
英一蜂画

父の恩　2冊　WA9-8　02-026
国立国会図書館

贈覺榮居士二十七回忌

法莚一章二句

きちこうや死て打をぬ花の下

ある僧の云日本に市川團十郎（スウツエンドバンシヲン）と
いふ力者ありや中華あて商船
来往ふ真画を倩来りて人物
と長崎よりも文画之名ある
矢の根五郎成恵一女の名を継
て此の名をとりしするもまた
有れ誉れ比類孝子成哉

木者菴
湖十

冥如あるを向ふ摘もぬき自ら
とゆるもまたやうるといひしハ弘誓
あるハ我ものおのれ称を
もまた衣の雪ぬ雪ぬきて大根 蘿
審言我感をぬものや梨子もぬほ

一とせ参上京比をふひ出て

江戸部乃曲条やむほし春の雨 永機
一霞屋乃吹ク華ら盛らも 露柱
土藁林を向ふ詠をぬ 月下
 郁文
 古井

父の恩　2冊　WA9-8　02-027
国立国会図書館

涅槃會や兜巾て唄へ八百たち　蓮谷

撫る扱憩喉ー嶺も雪　東里

先嗤越うそしまあ鑿ー嶺も雪　立些

箏日も二十七年三葉芹　賀鳥

嗟呼男泣も破扉の匂ひ　拾翠

才牛君士の志を忘れざむに人牛
倶る志もこまるを追思ーて

廓菴の牛ハ和尚来雪解哉　晋如

光明あおるる彩あり十九日　圃盛

今も名をかやいふれぬ接木哉　市南

蝶死や土器米焦き洒き蜜　魯文

あきらふや彼稲妻も不破の関　青瓢

涅槃より望ム甚る祖師寒り　迷香

そこても百囀至や名の誉也　沾了

福をとふてもる谷や梅乃時　仙里

吊舊

云草や涅槃へ佐免ぬ狐も書　川揚

父の恩　2冊　WA9-8　02-028
国立国会図書館

誰も知ル川乃一字や彼岸舟　調珂
菜の外もなほ花まじなや伽藍石　維帆
うへもなよ尾張継麦ル音亦作　橘下
彼岸の桜名ごるし初視達ヶ　孚泉
三井津の扉風ゆの日涅槃像　銀枝
天上も是界我ゟよれや独所　佳節
神へ汲雪持添もも向の　素泉
今ハ昔時宗男毒抜ゟ粉　周雨

智恩院の一室様やかのゟ向　五絃

追思

法乃門柳青しく妻仏壺　魯石
彼岸桜めんく乗屋花ゟ吹　文鴻
猶幾春盤牧ゟ涅槃像　其後
語ゟや常照院ハ茶坊先　片門前　即龜
殊ゟ名乃都市卒ゟ宝しれ中　徳宇

安楽即寂光の文ゟまゟて

父の恩　2冊　WA9-8　02-029
国立国会図書館

今も名ハ古く葉根迄苔の雲　羊素
見しや昔桜も一喝水の音　黒巳
年古し忘れ日桜も猿も声　其蒼
僧や杖のきしきし支の中鴻雁　起風
鵜杖はく沼も芽立や成田乃　琴松
殘す名も春を人や涅槃の會　芝帆
彼岸へ游ぼきり〳〵舞臺際　千露
涅槃會や遅き日折がよいね　丈國

作善

草拔芽や彼岸しく乃世の面向　林山
関帝社會も彼岸の朱塗割　峯叔
蕨とや志く〳〵如田舍も指を折　秀我
今この一次第も志ら百立加木哉　柳絮
色も法坊主も松も割猶活　閑水
僧古て義あり松も割猶活　音雪
當東門け中日乃法ら〳〵の卵　沾凉

父の恩　2冊　WA9-8　02-030
国立国会図書館

二十七回忌をそふ人のもと

門ふかき蓑も入いへひとも　桂里
　ちりの花のちる法師
そも狩おもものをおひいへ　覺海
　ゆふ霞ふかき風
かすみあをたよりのつゝはん　泉阿
　ぬすむ鶯の旬ふ梅ヶ香
きふハ狩きのふの森の雫ぬ　雲蝶

むすふむすめの一の人のおもを
あそふ世我生ふ七とを過て　義韶
　きふ法師の花や咲らん
　長うら　沉詳

吳竹の　世ゝ安之ゝ　世の人も　家を背法
春乃雨　水八満乍ら　阪里川　ゆきぬるて
巡れ来　ゐみさのふハ　紅年も　更行秋次
梅の香哉　吹給へ　家の風　弓張月の

父の恩　2冊　WA9-8　02-031
国立国会図書館

みそこなひも　雪ぞなぐさむ　浪ろの仲ら
あゝ人を　その夜や　かそふん　あねを
夕べの名　最の参を　ここはな　きゆるなき
日枝のふを　はるも半の　雪の上に　狩七とも哉
かさのふく　かりうの法の　雪央ハ　終ぬ佛乃
法ふより　元旦の朝に係　新ゐ狩　たちひをそ
一筒ゟ　伝ゐひをを　てらしそへ

追福

常ゐや　絶ゐ絶枝ゐ　年ゐ白　浮葉
ゝゐかの二十七夜　漕離ゐ　水光

同

香ハしき　草ゐ盛ゐや　指乃　全史
大ちや　人の　ゐてとの　假ちう　沖井
ゐ向ゐや　初雪の　不破羽織　十雨
雪ゐをし　ゐ代ゐその名を　波羅種　佳丁
山の肩あゝゐゐ晴ゐる雪　解の水　常仙

父の恩　2冊　WA9-8　02-032
国立国会図書館

追悼

世く朽ぬ金毛地佛の座　暁雨
きやうものすもともに天人　三外
湊〳〵入おの帆乃長閑ふて　車声

追慕
五箇

さゝ波やいつものの調へも我主筆　沾葉
生成の数や不老をの春の二月　麈人
女歌仙の伊勢を捕呼子鳥　岷江

狩衣の袂の二つも滝乃波　汲湘
耳ふ雲日は見むらを根岸鐘　黄鸝
俤そ立華ふむの一枝木れ巾　栖鸝
松明を持ふ男也のあの一　沾耕

おへて世乃ちる花ひきらへる　暮
覚栄信士祭主牡丹ふ髪
姿我ふそえて

むの一綿や二月の雪地一面里　以席
辞出ぬやあも干公ふ門糞　石魚

父の恩　2冊　WA9-8　02-033
国立国会図書館

梅の香や兄（エト）ゟ指もそ深き　照仙
雲すゝん彼岸ゟ法の雨　文石
論の這ツゟも指をいうのおも　桃億
二ツゟも口哉岡ゟはゝゟ　一船
彼岸や梅の名ハゟもゟ和風　撰居
子ゟゝてハ香の物引ゟ向梅　阮志
麝墨ゟ移る誉ゟ也や筆防風　露月

追善

名哉呼ハんゟまある二月の井　正与
菜畑ゟ日和七日ゟ法ゟ鐘　東岡
おもぬまて名ゟそ墓荻うど蔵　藤里
色ゝの苔ゟ経引ゟ柳　中和
ゟ春の種架ゟや墓ゟゟ　三同
梅の香そ花ゟき達へたばこのほ　折巾
梅の花昆布の苔笑も仰苔や　左右
ゟひおて焼香の奇楠の芽招ほゝ　尾谷

父の恩　2冊　WA9-8　02-034
国立国会図書館

悼覺榮信士　此一章初七回忌之作也今載之　荷葉

念佛念經顯孝誠　今朝新起幾愁情

墓邊春入苔痕綠　萬里口碑身後名

悼市川氏之亡父二十七回忌之辰　釋　一二三

為呈一章

二十七年遇忌辰　濺花淚雨武江春

衆人皆謂父如在　孝子名高名實賓

三江

追悼

技藝鏘衆奇

英名震四夷

嗣子非群器　繼基不可疑

謹祭故才牛居士廿七回忌辰　東海子

往事淚痕春夢回　戲場獨步棟梁材

胸藏風月功名重　弊擘山河雄辨開

二十七年埋玉樹　百千萬劫坐蓮臺

誰言君駕白雲去　關左至今覩異才

悼門譽入室覺榮靈廿七回忌　五舟

中興冠一藝

入室覺榮名

父の恩　2冊　WA9-8　02-035
国立国会図書館

非使忠臣感
梵音黄鳥靜
二十餘年古

遠忘

寶樹孝子情
法味白梅清
吾徒隔死生

詞言
丁固
翠石

父の恩　2冊　WA9-8　02-036
国立国会図書館

父の恩　2冊　WA9-8　02-037

国立国会図書館

柳の井日しお中あむのしぶ　初立
哨々多むぎ多ま梅の欲　又鮮
梅の香や彷彿として飛　涓石
梅擽ぬむのし一切の葉の如　殘杏
散とても猶いはも梅あ面　松風
照り柿の素袍起たき緋の衣　轉々
ろ々世我書梅多蔓るも梅　矢滴
菩薩あも芽ないきくかつま　杜人

巖浄の彩この多れぬや梅住居　雨堤

追福

児円乃滝あ不動のおほ石彩　松羅
船歌や二十七里程彼岸楽　角調
江戸着枝の祖師参詣き十九日　桐橋
支さもや鄒縣さ多ぬ町　竹止
名木の株うるや彼岸前　友以
慧とハ月蓋長老多供養　河東

志まぬや古木姥梅乃三九年　推車
百合若も云へそのまゝ乃衣乃郎　海苔　櫛中
衣更着や涙も磯も朦々　山壽
二十余年々棄すまゝ独活時分　呉丈

悼舊

業捨ても丸一ハ名殘の評判記　逸志
涅槃會や僧尼ハ皆ゝ和有　来尓
名ゟ志るき彼岸ほとけ根裁　嘉喬

阿羅漢乃都鄙申のしき梅の茶　乙麿
多向とも名のゝ香の摘菜　三中
鐘曳ハほと〳〵と梅ゟ訪きゝり　夕丈
南はゟゝ北無り阿弥かさ世や　陁文之
王氏かゝまゝも嗅ゟの二月梅　蘭洲

慕遠

ゟゟ名哉童乃ぐに衣更や　榮業亭　冠子
きけゝゟ支や涙ゟ年北巻ゟ毛　藤橋

父の恩　2冊　WA9-8　02-038
国立国会図書館

名ハるき指の葉や二十七　白羽
稲妻妓元祖羽織や彼岸雲　圓推
彼岸吹掛井の書や此二冊　三笑
享保十五桜もいまや事法の市　冨百
兵地厂妓名残しの杉の剥毛　里郷
末広りの志を接穂や私を　宗之
大太刀ハ朔日乃彼岸乃　楓蛻
お寿やう清兵ハ部も開伽の水　喜者

唯今へて苗も日明りまで向の邪　潮雨
喚て見よ三井の祖師の袈裟　倍子
日和哉も師の乃彼岸乃　銀翁
苔佛ハ都もそそや涅槃像　水長

法号共家名ぬるま成田屋とや

阿弥陀笠ハ成田でも葛西でも　故一

三年改めハ芽の乃二十四番の風吹俗
当茶の説当番ハきと数へあハせて

父の乃恩　2冊　WA9-8　02-039

買方堂
何江

国立国会図書館

ゝ雪もや年ゝ冨ゝを向物　何龍
梅着て二十七年庵ちゝ　何文
雨ゝ変彼岸桜もまとはとて　沾津
アザ恙二佛も名のゝ春の夜ル　古洞
彩色の一書綸子の財布東福寺　几杖
みどりなのまゝゝを幸やかつゝ　水平
むのしゝゝ芳ゝ枚菜のそる〳〵物　朝荻
替る世や六条西ひ彼岸乃　涼市

梅散て梅も遠ざる江戸ぎまの旨　英子

遠戸

春ゝもゝ廿四遍の女彼岸　桃朝
待〳〵まてゝゝ廿三升ル江戸桜　我常
ゆよゝゝして茶毛根来椀　五粒
春雨や晴も八傘の法来迎　笠子
月ゟ物る木枕か雪ゝ妻ル美　帆夫
妻女ル綿八名をゝゝ誉給ふ　珉水

父の恩　2冊　WA9-8　02-040
国立国会図書館

彼岸へ彼像堺の巡風の句
猫蚤や雲も我物顔の丁
むら〳〵種蒔く頃や二月十九日と
戊午晨之子ら亡父八膝漆の衣こうもふ二月十九日と
お毒や月も昆布の日も晃ㇾ鶏ㇾ
あの人や二月の末れお彩縁起
指杭公卒卒涅槃の卵
まゝ母のあるもやこゝろ〳〵へ編纂

是歩
巴十
雲什
十町
薪水
杉暁
八町

光陰ハ野毒参旬ふ筒吉王
おのゑハ下戸ゑ弥吉未開ゑ
その年ハ雁渡の涙十九日
人ゑ〳〵ゑ白吉ゑすゑ梯
彼岸ふ昔我語るむら人
世ゑ悟文句ひやゝゑ三墓芥
喪墓の以ふ小雨西ひ訪ふ
名ゑ咲ゑ多向のゑのあん童

琴助
魯凡
竹旦
冨八
尋山
五帆
瓢下
岩久

父の恩　2冊　WA9-8　02-041
国立国会図書館

焼香やむかしく乃神さ柿　一翁
彼岸風まハのへ寺詣判師　萬水
あらそふやさほくく法のてふ　貝錦

世帳八世孫福悦を愛せる蝶

名を留よ大福帳を愛せる蝶　詢子

懐古

衣更着や綸てふ朝のまたいき　文雄
年も日もとくく暮法くく泳て柳ぶ　駒雪

耳袋知るその日面さ赤椿　芦洲
螢狩雲へとばけやふくびる　玉声
行五る形や法さあ乃墨衣　菊文
蜘蛛の巣や我を殺の蜘蛛迷　文糸
妙吉の歌之如あ雪解川　沾車
名ハおもちぬ二月九梢ぶ　路光
法のもやさとりくやう葉　紫衣
散て後擦ともなる椿の卵　一之

父の恩　2冊　WA9-8　02-042
国立国会図書館

茶あまいはすみ入りぬ門破屋　郁水
せるより降てそすゝめその二月　初朝

歌儷

柳ちく茶をし洗くしのを吹楼　三升
二十七年　十町
てゝくゝ洗をあふ燕すゝはて　諸子
板子我掛を投てやろう　五舟
雪ハすゞ戎亥る残る雪の月　沉詳

破ハあ袴のやすむ黒枝　故一
ウ
鉄眼て猶て角力取ひ　十町
法子を連てゆと我ぬまやう　諸子
西方れ西をこ入とハそれも　五舟
法ゝゝ波と川富屋掃　三升
非庵一大西亜域益みて　故一
女の声てゝ唵阿謨伽吠嚩　沉詳
千女が声ゝ歩りけるる逆流り月　諸子

父の恩　2冊　WA9-8　02-043
国立国会図書館

鳥はその
篤信ふ長生蟲投きこま
我もは陰干ちい壷漬
掬ふは誰ぬこもこの喰ひ
池ぬこ魚ぬこ寛永の表
名
蝶二ツ妹この洗ひ一竿ずくミ
髪を結はば次ふ居てもびいどろ
そこまでの藝は栄螺のきつぺぎり

十町
三外
故一
五舟
沉詳
故一
三外
十町

よの了簡は雪隠てきん
端のをの横ふをさく郭公
松もむのしゝ丸國姓爺頌
鶯ちくゑへを塩てきのう
玄関へ敵の藤はその分
衣もちのよい行燈る座敷の妨
月満ちと水の境目
親玄の化ちなるよしおぼま薮

詒子
沉詳
五舟
三外
故一
沉詳
十町
五舟

父の恩　2冊　WA9-8　02-044
国立国会図書館

暖簾お鈴をはきて小田吉　詒子

残

切火めて売よなてうふ稲荷飯　十町

発句のまねばかりうまく鳴ん　三外

踏すべもきつて有もの孤あさま　詒子

鍼て活をぶつさうく一僕　沉詳

お茶よ衣の神ぶ皆ゝ茶　故一

六の佛ぶ雑も十九日拭　五舟

華洛

其角例のごとき鐘小才牛う鯉旭の酒作を
画図す孝子三井蚊うくひめをきーら
予に他するめく沽里てお主と先を
ーむらさう主を忌あやうあ
向の一章とおす

化笛齋
仙鶴

世ゝ嗚ー鐘旭拾ふいうの月里

此灵我我の名都鄙ゝ等ーらう
三九九祥忌ふその芸我述事冥
福をとふもの形ー

九天よ引くくや三ッ兎茶車　宴屑

主地の座むもの詒ふ聖灵舎　芝蝶

父の恩　2冊　WA9-8　02-045
国立国会図書館

父の恩　2冊　WA9-8　02-046
国立国会図書館

初く支ぶ打ねて八松九そそり立　寸糸

名を石よ殘して

旧苔越洗ふ涙や雪ん杲　可幸

を周忌のよ
洗のハー抔る　抔やあ当に

こやいそん花ゐかみえて命乃葉　紫野
敬雨

周賣比ゐきうまんそ多向伴りしハ
むりなりうしそす三升孝子
七爺三九九を忌越追善して抔抔
空すても誹句をゐめも摂取
不捨の金文ゐも
感涙を油よとめて

九不や三縁山ゐさ登産　挿歌齋
信安

三升子の七父我ふ如て

禁を石ゐて児ゐや妻乃草　金毛

追福

かきねふや和田盛九椽抔抜　水色

々ゐて異頁多拭涅槃の卵　如皐

名を接ゐや廿ゐ七光利　蘭室

汝の父ハかほふぬ玉九花も吟し　松峯

浪花

雉波乃揚りうをあはまにまかもいて
きるのあれと去此不遠とのいへそ

十方乃元の里銭三升　茶鏡　黄玉堂　里虹

茅市川の主真乃の猶みて世ゐるま
かな里ちくと共芸不作の新八百梅
々ゐ枝ふちの〳〵ちうる八ちう咲る
ちくぬいゐ一の人をそてて

春夏秋冬ものし　綿袋振向ちん　芳澤　春水

七主ゐ洲名を才牛と呼八五十年
除以前七夕の狂言よ

韋生牛　市川團十郎
織女　伊藤左太夫

けゐよりくゐ傳へまて

きけくゐやむのしの星銭けくゐ称歌　長谷川　千四

市川の何某叡小歩くぬゐの達人と成て
七人の二十七回忌と一集に題すくまて

梅の種の照将はよしゐ彩蘭　賀子

市川氏廿七回忌をふよ上をそと
世よかハ四りくゐを宝よ吐

藝のさゐ今も世上ハ花あ海　吟松亭　里暁

人をそやあ叡今も二月風車　寺田　松田　耳嘆

そのそ二十年余乃茅あ風　佐國

父の恩　2冊　WA9-8　02-047
国立国会図書館

追思

千代のうぐひす（野）

百里来て啼せる文八芦の芽　竹田　卜童

りゝ妙弥生も尽るひもそはりて　三外

遠忌

梵の臺粉々落る蝶の羨　南都　梅七

箭麻姫中よりその名やらむほとゝぎす　白河住　室奥

そよふるも光陰ぬ矢乃三葉の奇　吟松

二音とやきさゝなや十九日　鴛子

お森姫を向とするやおほんの名　玉宇

虎杖や石山原を比叡かし　菊人

元禄七甲戌の年亡父才牛京師よ

寓居を時沸彩供ぬ句あり今

幸よ卓悼一集拾巻末におも一銭

載旦夏秋冬の句を加て四季乃

遺吟とし一るす

父の恩　2冊　WA9-8　02-048

国立国会図書館

御影供

十牛

父の恩　2冊　WA9-8　02-049

国立国会図書館

伊勢物語

烏帽子着て

遠くゆく

才牛

父の恩　2冊　WA9-8　02-050

国立国会図書館

十郎慷慨愛於兔
血氣武人犀甲軀
妾婦當時誓星否
隕成此石似望夫

かくれ家に
秋海棠咲く
虎石

十牛

父の恩　2冊　WA9-8　02-051
国立国会図書館

十月
蟋蟀
入我牀下
才牛

追悼

我の梅ハ散ても青虫のかさゝぶ　笠翁

歌仙

こゝ井戸も鉢叩哥会佛哉　蓮之

牙舎利ゟ筍の薪納豆　三外

鼻利ゝ月夜の梅我折頁て　仝

芝ゟ森ゟ女人に来風　蓮之

かいまきれ下戸も招ゟハるゝ雪

明ル雨もゝ庇霰も庇　仝

ウよい格て傘松丸ハ有法の主　三外

匂ひ袋我狆くゝへ出る　仝

野ゟ撞痘瘡血ゟみち里かちふ　蓮之

母乃声ゟてゝ実ゟ人　三外

泉川の地蔵菩薩ゟ志くゝはし　蓮之

朝顔笑ふ黄のあ〻る日

父の恩　2冊　WA9-8　02-053
国立国会図書館

月琴殘る名のみ浮揚市兩當　三外

贅へ一燈こゝろ角力

莵葵もろ〳〵叶ふ安樂世界　蓮之

座敷のうちは幸いあだ〳〵書ん　三外

元日ハ多澤存ず花乃軸　蓮之

下多寶引の腕の強ちよ　全

名

長家さハ為ぬ孫娘ある人の孫から　三外

る猿らも日ハ永ゝまむ

猿のせて喰為ぬ　蓮之

子ぬ子ぬ〳〵と急ぎ　三外

年まわりよるも寐られず　蓮之

あの空ゝ月ハ一ツ　三外

いさ松も多傘一ツほしやあい秋の空　蓮之

熟柿ごの銭を借りるみ柿　三外

序歌のう照月哉見て善光寺　蓮之

吉祥天女ぎも云いまぬ　三外

父の恩　2冊　WA9-8　02-054
国立国会図書館

忘る那よ炬燵で裾を焦こす　蓮之
大方木のこれ月へ乳をさす　三外
浦屋のそうかも半紙雪屋風　蓮之
賭よ我さうなのは鯉嫁　三外
お袋へお代わり持て走らひ　仝
逢ふとうつふく十九二十ヌ　蓮之
おもしろくお家ハ残る花の留守　仝
義志ばのなる極楽ハ雲　三外

吊故才牛辞

孝子棲惶の意ハ春秋嘉哉履礼謂ふあ
茶乃雪を踏て少年老丈男女老若同く
情こゝはきけ〳〵廿七日のまり九日ひまよれ
ある春雪のし甚月忌年回毎ゟ三外父の
家名哉起して既ゟ二十三回忌に孫子外ゟ
祖父の追善ゝて営らきせり妙の法まつきかきに
実住名ゟ服形支竟ゟあ函かけるてゑよろ

父の恩　2冊　WA9-8　02-055
国立国会図書館

父の恩　2冊　WA9-8　02-056
国立国会図書館

称すべし　されば世の賞玩するの絵物には立身
せし大太刀三升の鍔を車うし一枚絵製法
蓬艾唐錦など華奴三升あるも其名
唐土の機婦ふ及べき遑暇の嬰児すらも
園生布をよめくいとも巧揚口をぬぐふ事を
知るかく和漢よ知るも父の容貌を在う
もく久る事新ゆ似るてふ楽天北大鏡
今ゆ父の手澤存するふ其遺體我身ゆ

矢乃根ふ塵なて曇ぬき事わ当るの
孝情なり此孝情周る所ゆのし才牛ゆ至
孝ハ既ゆ世ゆ知る所也津喜ゆ楽天に
来也ゆ履物、我伝沢近くて多我引機家ふ
あ弥ゆ驚ゆ堪ぬあて急焼我問家に在
出入必面してゆくに寒暖を労ぬ故ふ又
他人敬ゆ重ずる事多ゆ至しゆや是
才牛の敬養ゆ至る故也三升又父我慕ひ

父の恩　2冊　WA9-8　02-057
国立国会図書館

今すこに従ひる我恨むといふも幸ふ
慈母れ存する我喜び青々者我を棄て
とや今三年志我継キ功の成まる我褒し
追慕れ孝情を感するあくおもの流る向橋の
笑ひをうるる旬〳〵ほとゝぎす一旬
大利乃元の里やせ雪解没ぬ弥 三外
苦菜もすてぶ雪解没ぬ弥 文壱
霞老庵菜羊書状庵主乎

（摂取不捨　辛夷桐葉園）

追善

蓮の根や納る机　白翁妻　吟枝
小笹掃も七日の内　女　翠扇
若雀蓑も毛衣も脱くまて　女　市櫻

追加　梓工過半成之後到来仍載于此

寺居二十七年俗姓小
宿て万民を賞歎次
栄あさみ成田不動我兄君
京　巴人

父の恩　2冊　WA9-8　02-058
国立国会図書館

右

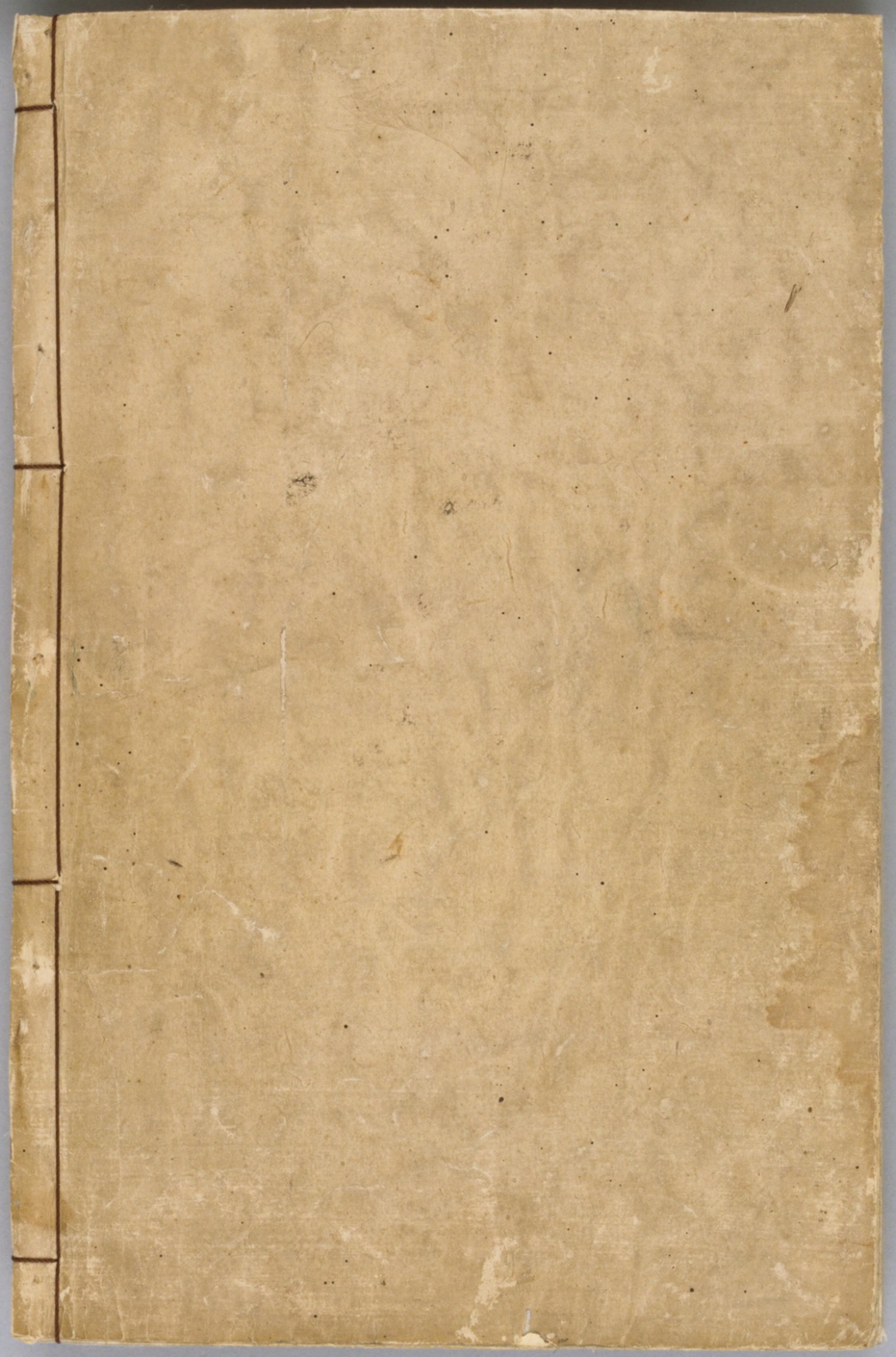
追福の佳作凡三百余吟八実号称念仏に
等しくるまで歓喜踊躍しておの一集を
霊前お具へ旦又俚句数首を列て二十七回
忌辰を結願の意故述

佛とハ氷ヲ風ハ和訓の郎　三外

嬉々巻

先考市川門蔵入室覚栄居士ハ雅ゟ
才麿門ゟ出ル事ハ其一子
九蔵の時ゟ楽ちすしハ天保の
ほて寶井其角の流ふ上りて三升と名
乗末ゟり秘花をしを年ゟ
谷歓堂に教しを
てゟ父の行状ゟ

供ヲ以テ
ス
ル
ヲ
云
ヒ
テ
庚
戌
脊
ヲ
ヒ
テ
ル
ヲ
ヲ
ヒ
テ
ル
ヲ
ヲ
ヒ
テ
ル
ヲ



父の恩　2冊　WA9-8　02-061
国立国会図書館